



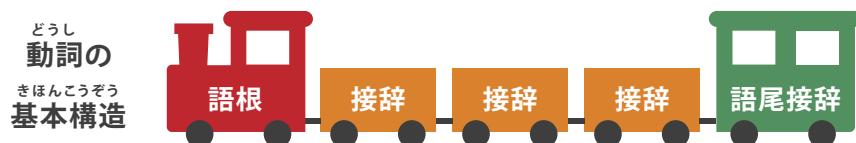
どうし きほんこうぞう 動詞の基本構造

この教材では、動詞の構造について説明します。動詞の活用にも方言差がありますが、仕組み自体は共通している部分が多くあります。ここでは、国頭方言のデータを使って説明しますが、語そのものの形というよりも、どのような仕組みになっているかに注目してください。具体的な単語の形は、このあと学ぶ1つ1つの動詞の活用形の教材を通じて説明します。

1. 動詞の基本構造

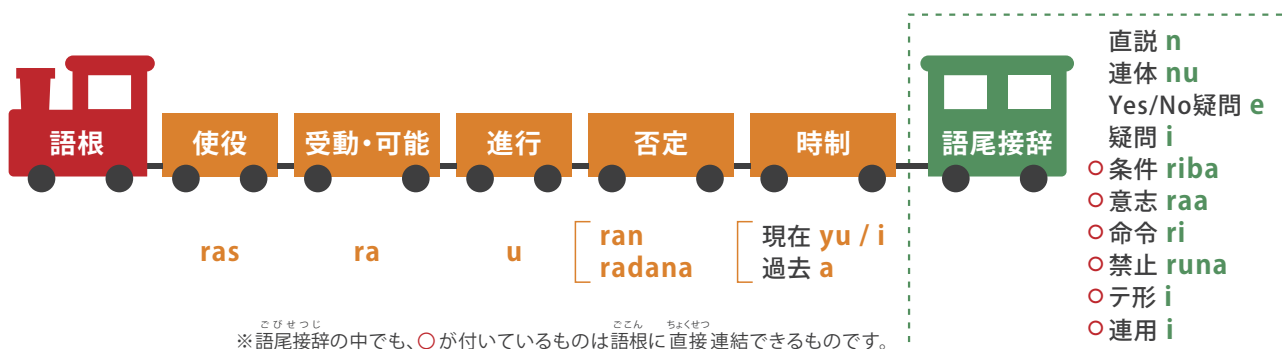
動詞の構造について、列車にたとえて説明します。しまむにの動詞は、単語の意味を決める機関車(語根)に、様々な意味を持つ、付属の車両(接辞)が付いてできています。列車が走るためには、最初の機関車(語根)と、単語を閉じられる、最後の車両(語尾接辞)が必要です。

単語の意味を決める 最初の車両(語根) と、単語を閉じる 最後の車両(語尾接辞) が必要



2. 車両がつながる順番

語根(機関車)の後に付く接辞(車両)は、つながる順番が決まっています。それぞれの用語については、各節で説明します。



語根のすぐ後には **-ras**「～させる」という意味の使役接辞、その後に、**-ra**「～られる／～できる」の受動／可能接辞、**-u**「～ている」の進行接辞、**-ran**「～ない」の否定接辞、**-yu**(現在)か **-a**(過去)の時制接辞、そして語尾接辞が語のおしりに来ます。



語尾接辞の中でも、○が付いているものは語根に直接連結できるものです。例えば左下図のように「語根－命令接辞」というとても短い列車もできます。一方で、それ以外の語尾接辞は、語根の後に他の接辞(例えば時制接辞)が必要になります。例えば右下図のように「語根－受動－進行－過去－直説接辞」のようにとても長い列車になることもあります。

図. 短い列車と長い列車



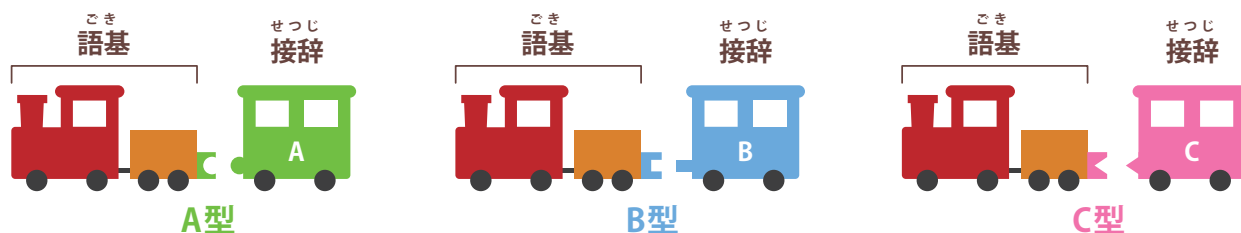
3. 語基の交替

3-1 語基

しむには、車両(接辞)の種類によって、前の車両との連結部分(接辞の前の音)が変わってしまうという性質があります。このことを説明するために、ここでは接辞の前の車両全体を、その接辞に対する「語基」と呼びます。

接辞は、大きくA, B, Cのグループに分けられます。そして、接辞のグループによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わります。Aグループの接辞につく語基のタイプをA型、Bグループの接辞につく語基のタイプをB型、Cグループの接辞につく語基のタイプをC型とします。

後ろに付く車両(接辞)のタイプによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わる



3-2 接辞のグループ

表1は、しまむに動詞の代表的な接辞です。接辞には、(A) 語基A型に接続するグループ、(B) 語基B型に接続するグループ、(C) 語基C型に接続するグループがあります。なお、ここに書いていない接辞は、前の語基を変化させません。

表1. 接辞の種類とグループ

接辞のグループ	活用 の名前	接辞の形	語基 タイプ	例: abi「呼ぶ」	例: mat「待つ」
A	意志形	-(r)aa	A型	あびらー abi-raa 呼ぼう	またー mat-aa 待とう
	命令形	-(r)i		あびり abi-ri 呼べ	まてい mat-i 待て
	禁止形	-(r)una		あびるな abi-runā 呼ぶな	まとうな mat-una 待つな
	条件形	-(r)iba		あびりば abi-ri-ba 呼べば	まていば mat-iba 待てば
	否定形	-(r)an -(r)adanaa		あびらん abi-ra-N 呼ばない	またん mat-a-N 待たない
B	連用形	-i	B型	あび abi 呼び(たい)	まち ¹ mac-i 待ち(たい)
	現在形	-yu		あびゆん abi-yu-N 呼ぶ	まちゆん mac-yu-N 待つ
	丁寧形	-yabu		あびやぶん abi-yabu-N 呼びます	まちやぶん mac-yabu-N 待ちます
C	テ形	-i	C型	あびてい abit-i 呼んで	まち ² mach-i 待つて
	過去形	-a		あびたん abit-a-N 呼んだ	まちゃん mach-a-N 待った
	進行形	-u		あびとうん abit-u-N 呼んでいる	まちゆん mach-u-N 待っている

※「例」は国頭集落の形です。語の具体的な形には方言差があります。

1 ciを「チ」、cyuを「チュ」、cyaを「チャ」と読んでください。

2 chiを「チ」、chaを「チャ」、chuを「チュ」と読んでください。

例えば「命令」の意味を表す **-ri** という接辞(子音の後に付く場合は **-i**)は、語基A型に接続します。「連用」の意味を表す **-i** という接辞は、語基B型に接続します。「進行」を表す **-u** という接辞は、語基C型に接続します。



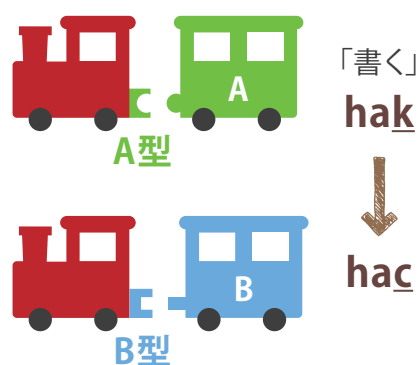
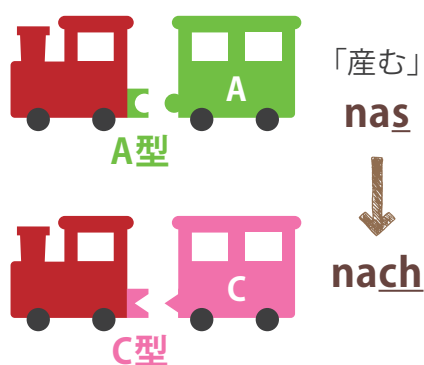
3-3 語基の交替

後ろにつく接辞のグループによって、前の部分（語基）の最後の音が変わります。語基の変わり方には、大きく8つのパターンがあります³。表2は、語基の変わり方をまとめたものです。

表2. 語基の末尾音の変化（国頭方言の場合）

語基の末尾	① ぼいん 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
例	abi 「呼ぶ」	nas 「産む」	hak 「書く」	mat 「待つ」	uig 「泳ぐ」	sin 「死ぬ」	kam 「食べる」	asjib 「遊ぶ」
語基A（基本形）	ぼいん 母音	s	k	t	g	n	m	b
語基B	ぼいん 母音	s	c	c	z	n	m	b
語基C	ぼいん 母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

例えば国頭方言で、語基A型が s で終わる語（例：nas「産む」）は、語基C型では ch で終わる形（例：nach「産む」）になります。また、語基A型が k で終わる語（例：hak「書く」）は、語基B型では c で終わる形（例：hac「書く」）になります。



³ 動詞の「する」「行く」「来る」、そして「見る」や「着る」などの動詞は不規則な変化をするので、別に説明します。

参考

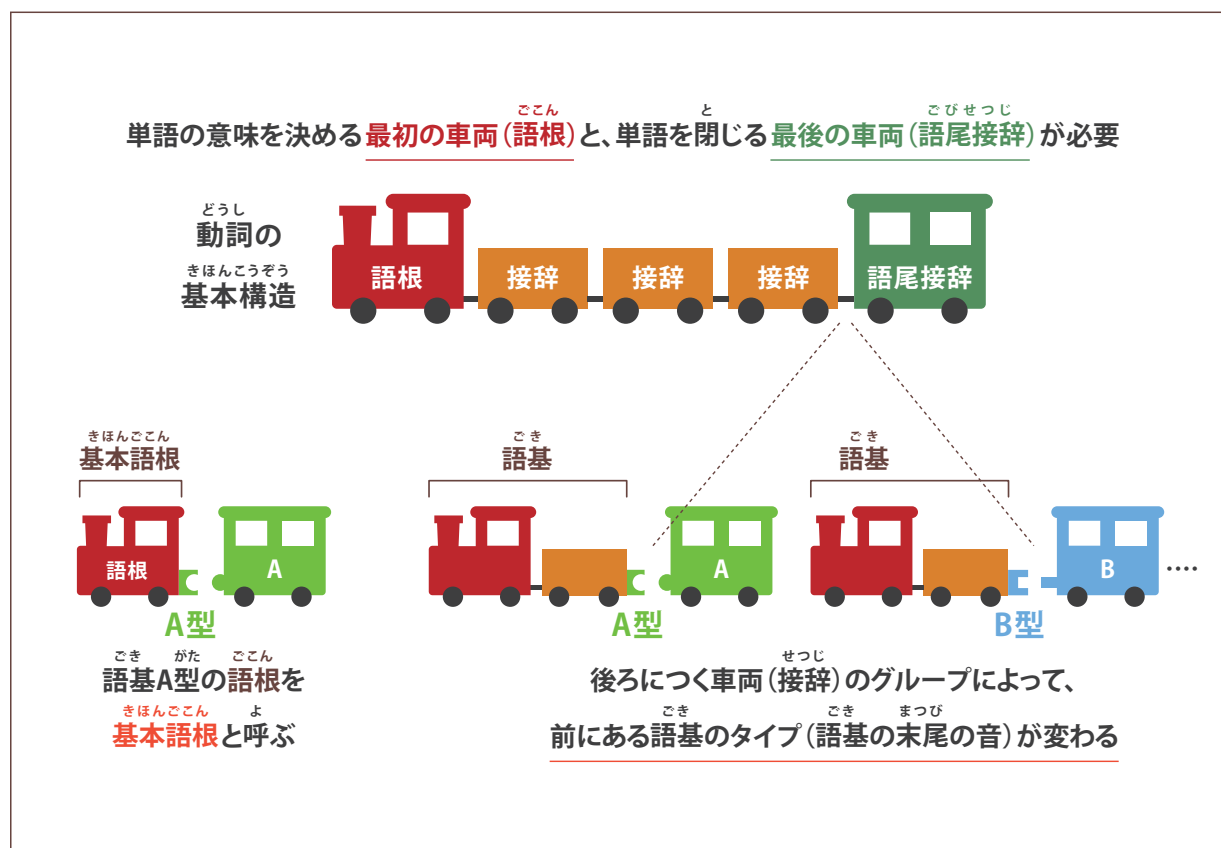
動詞の基本構造

この後のページで、動詞の活用形について1つずつ説明します。もし動詞の構造自体が分からなくなった時は、このページに戻ってきてください。また、説明が分からない時には、「発音してみよう」で、具体的な言い方を発音するだけでも大丈夫です。

動詞を列車にして説明します。しまむにの動詞は、単語の意味を決める機関車(語根)に、様々な意味を持つ、付属の車両(接辞)が付いて作られます。列車が走るためには、最初の機関車(語根)と、単語を閉じられる、最後の車両(語尾接辞)が必要です。

ある車両(接辞)の前にある車両全体を、その接辞に対する「語基」と呼びます¹。後ろに付く車両(接辞)のグループによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わります。

このように、変化する語基のタイプには、A型(基本形)、B型、C型の3種類があります。語基A型の語根を「基本語根」と呼びます。



¹ 語根に直接、語尾接辞が接続する場合には、語基＝語根になります。2以降の説明は、すべて語基＝語根ですので、語基と語根を読みかえても大丈夫です。

